

追尾

誰もが空間の隙間を埋め尽くそうとしてきた
隙間というものは常に不安なものだから

そしてエントロピーの秘密を最後の一滴まで搾り出そうとしてきた
つまり、エントロピーが保存を妨げるものだから

ところが、限定と拡大とは同一であった
そこは何処かで連結しているらしかった

誰もが薄々気づいていることだ

つまり、永遠が静止の中^{うち}にはなく、追跡の中にのみ在るものだと

この不条理に唾をくれることのできる奴が居たら御目にかかりたいものだ
それこそ神そのものに違いない!

それなのに未だ生きて在る人間共の
ああ、何といじらしいことよ

いや、そもそも生きて在ることも
それを捨てることも無意味だったという訳だ

おめでたいと言えばそれまでだ
せいぜい飲み干してやるとも

(1991.6.21)